

子ども用



伝道地便り

2023年 第1期 東中央アフリカ支部

第1話「神さまの方法」	ルワンダ
第2話「小さな伝道者」	ルワンダ
第3話「こんにちは、デウス牧師！」	タンザニア
第4話「黒い棒を燃やす」	タンザニア
第5話「魂に響く音楽」	ウガンダ
第6話「再びチャンスをくださる神さま」	ウガンダ

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 神さまの方法

ルワンダ



ジェアード

ジェアードのお母さんはメキシコ人、お父さんはコスタリカ人で、2人は中央アフリカにあるルワンダという国のアドベンチスト大学で教える宣教師です。そのため、ジェアードの家族は故郷を離れ、ルワンダで暮らしています。

ジェアードは宣教師の子どもであることを楽しんでいます。

ある日曜日の朝、ジェアードは、元気いっばいで、ベッドからとび起きました。そのまま自分の部屋で、お祈りをし、聖書を読み、聖書の学び（教課）をして神さまとの特別な時間を過ごしました。そして、リビングルームにいるお父さんとお母さんの元へ行き、笑顔で「おはよう！」と挨拶しました。お父さんとお母さんも「ジェアード、おはよう！」と返しました。その後、ジェアードのお兄さん、アーノルドも加わり、家族で朝の礼拝をささげました。

朝ごはんを食べた後、ジェアードはアーノル

ドと一緒に外に出て自転車で遊びました。しばらくすると、お父さんが2人を呼び、自転車を使って、キャンパスの反対側にある倉庫から荷物を運ぶのを手伝って欲しいと頼みました。ジェアードとアーノルドはお父さんの手伝いをするのが大好きだったので、自転車で倉庫に向かいました。お父さんは自転車に乗りきれない物を運ぶために、車で倉庫に向かうことになりました。

先に倉庫についたジェアードたちは、車で来るお父さんを待ちました。その時間はとても長く、永遠のように感じました。長く待たされても、ジェアードは怒ることなく、どんな物を運ぶのかワクワクしていました。

とても長い時間が過ぎました。お母さんが2人を迎えに来て、「車のエンジンがかからないの。バッテリーが悪くなってしまったみたい」と言いました。

一番近い修理工場は何マイル（数キロ）も離れています。

アーノルドは自分の部屋に入り、祈り始めました。ジェアードもお祈りしようと思いましたが、1人で祈るのではなく、「一緒にお祈りしよう」とお父さんとお母さんを誘いました。

お父さんとお母さんはアーノルドも呼んで、家族4人で祈り始めました。ジェアードは素直に、神さまに、「車を直してください」と、祈りました。祈り終えた時、神さまがどんな風に祈りに応えてくださるのかとジェアードはワクワクしていました。

「ぼくが、エンジンをかけてもいい？」と聞き、運転席に座り、鍵を回しました。しかし、エンジンはかかりません。

「もう一度、お祈りしよう！」と、ジェアードは言いました。

もう一度家族で祈り、ジェアードは鍵を回し

ました。それでもエンジンはかかりません。

家族は、もう一度お祈りしましたが、エンジンはかかりません。ジェアードには、このことが理解できませんでした。ジェアードは1人、自分の部屋に戻ると、ひざまずき、「神さま、どうして祈りに応えてくださらないのですか」と祈りました。

ジェアードは、とても悲しく、残念に思いました。なぜ神さまが祈りに応えてくださらないのか混乱しながら、15分ぐらい祈りました。

ジェアードが祈っている間に、お隣さんが来て車を直してくれました。

神さまは、祈りに応えてくださいました。そこで、やっと、ジェアードは理解しました。ジェアードは、自分が考えた方法で神さまが車を直してくださることを期待していました。しかし、神さまは、神さまの方法でこの地球全体、地と海と全ての宇宙を造り、直されるお方です。

ジェアードはこの日のことを忘れません。神さまが祈りを聞いてくださらないように思えても、神さまは必ず祈りを聞いてくださり、神さまの方法で応えてくださいます。

2016年に皆さんが献げてくださった13回献金の一部は、ジェアードの両親が働く中央アフリカのルワンダの医療大学を建てる一部として用いられました。皆様の献金を心から感謝します。今期の13回献金の一部は、この大学の教授用住宅建築の一部として用いられます。

〈お話のヒント〉

- ・地図でメキシコ、コスタリカ、ルワンダを見つけましょう。
- ・ジェアードは、グリッグス・インターナショナル・アカデミーのホームスクールプログラムで学んでいます。
- ・子どもたちと、ジェアードが学んだ「神さまが祈りに応えられる方法」について話し合しましょう。神さまは、私たちが望む方法で祈りに応えられるのか、神さまが一番良い応え方をご存じで、その方法を用いられるのか、

考えてみましょう。

- ・神さまが祈りに応えてくださらないように感じる時に、ジェアードのことを思い出すよう、子どもたちに伝えましょう。神さまは、私たちが期待した方法で祈りに応えるのではなく、神さまの方法で祈りに応えられます。
- ・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。Bit.ly/fb-mq.
- ・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.
- ・この伝道地よりは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。

「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No. 5)

「子ども、青年、若い大人の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No. 6)

「青年と若い大人が神さまを第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No. 7)

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- ・ベルギー出身の若い宣教師、デイビッド・エリ・デルホーヴ(1882-1949)は、第一次世界大戦直後にルワンダでの宣教を開始しました。原住民が、かつてルワンダ国王によって呪われたと信じた「頭蓋骨の丘」という名の小高い丘の上にニャンザという街があります。デイビッドには、その北側11キロの地点に50ヘクタールの土地が与えられ、そこがルワンダ宣教の土台となりました。

2. 小さな伝道者

ルワンダ



ジュゲ

礼拝でお話することを「説教」と言います。みなさんは、説教をしたことがありますか。ジュゲはルワンダに住む男の子です。ジュゲは、なんと2歳の時に初めて説教をしました。

ジュゲは、幼い時に、絵の描かれている聖書をもらいました。その頃、ジュゲはまだ文字を読むことはできませんでしたが、リビングルームのテーブルの上に聖書を開き、そこに描かれている絵を眺めることが好きでした。ジュゲのお母さんは、聖書に出てくる勇敢な子どものお話を読んで聞かせてくれました。夜に神さまの声を聞いたサムエルや、巨人ゴリアテと戦った少年ダビデ、神さまを愛した少年ヨシヤ王が祖母アタリアの悪に勝利したこと、イエスさまが母親たちに連れてこられた子どもたちに手を置いて祝福されたことなどを学びました。そして、夜眠りにつくと、イエスさまがジュゲの上に手を置いて祝福される夢を見るのでした。

ジュゲは、本当によく聖書の話を知っていました。そして、それは、周りの大人の目にとまりました。ジュゲは2歳になった時、教会のみんなの前で説教するように招かれました。前に出てみると、みんながジュゲを見ているので、ジュゲはとても怖くなって、恥ずかしい気持ちになりました。それでも小さなジュゲは、息をのんで、大きな魚がヨナを飲み込んだ話をしました。その時はとても緊張して、お話の一部を忘れてしまいました。それでも、安息日学校の先生は、ジュゲが説教したことをとても喜び、「良かったわ!」と誉めてくださいました。

ジュゲは、その言葉に励まされ、この1回で諦めませんでした。それから絵付きの聖書でお話を学び続け、お話を覚えるようにしました。誰かが、ジュゲに説教をお願いすると、空いている時間全てを使って、聖書のお話を覚えめました。そして、家中にある椅子をリビングルームに並べ、そこに人が座っているつもりで、人前で話す練習を重ねました。

ある安息日、ジュゲが説教をすると、ビデオを撮った人がジュゲの話している様子の動画をインターネットにあげました。それを見たジャーナリストが「小さな伝道者」という題でジュゲのことを報じました。多くの人がそれを見て、ジュゲはルワンダ中の教会に招待されるようになりました。

ジュゲはイエスさまのことを説教することが大好きです。そして、たくさん子どもたちに出会い、友だちになることが好きです。説教の最後に、「イエスさまに心をささげる人はいいますか」と尋ねると多くの人が手を挙げるのを見るのが好きです。

ジュゲが7歳になった時、遠く離れた町で1週間の伝道講演会を開いてくれないかとの誘いがありました。7日間、毎晩説教をしなくて

はならないのです。

誘いがあった時、ジュゲは怖く感じ、伝道講演会での説教なんてできないと思いました。そこで、ジュゲは怖い気持ちであることを神さまに打ち明けました。

「大好きな神さま、僕に力を与えてください。そして、説教すべき内容を教えてください」

ジュゲは、力強く語り、24 人の人がバプテスマへと導かれました。

今、ジュゲは 9 歳になり、すでに 60 以上の教会で説教をしました。そして、200 万人以上の人々が直接またはインターネットを通してジュゲの説教を聞きました。

ジュゲの他にも、ルワンダには、イエスさまの愛を伝える子どもがたくさんいます。ある子どもはジュゲのように説教をします。ある子どもは賛美します。そしてある子どもは聖書のみことばを暗唱します。

ジュゲは、「このように子どもがする働きで、何千という人々に神さまの救いが宣べ伝えられることを願っています」と言います。

ジュゲの一番好きな聖書のみ言葉は、マタイによる福音書 21 章 16 節です。イエスさまが、「子どもまでがあんなことを言っているのに、あなたには聞かえないのですか」（リビングバイブル）と言われる場面です。「聖書のみ言葉が、僕の伝道者としての歩みを支えています」と、ジュゲは言います。

今期の 13 回献金の一部は、ルワンダとその他世界中の子どもたちにイエスさまのことを宣べ伝えるために用いられます。皆様の惜しめない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でルワンダの場所を見つけましょう。
- ジュゲのように周りの人とイエスさまの愛を分かち合うにはどうしたらよいか考えましょう。説教をする、賛美する、暗唱聖句を覚える以外にも何かあるでしょうか。

- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。Bit.ly/fb-mq.

- 東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.

- この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。

「世界伝道の概念を理解し、牧師だけが伝道に献身するのではなく、老若男女問わず全ての教会員が伝道に関わり、キリストを証して弟子を作る」（「伝道の目標」No. 1）

「子ども、青年、若い大人の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」（「霊的成長の目標」No. 6）

「青年と若い大人が神さまを第一にし、聖書的世界観を持って生きる」（「霊的成長の目標」No. 7）

- 詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- マウンテンゴリラは、東中央アフリカの、ウガンダ、ルワンダ、コンゴ共和国という 3 つの国にまたがる国立公園に暮らしています。野生のマウンテンゴリラは 1,063 匹しか生存せず、絶滅危惧種に指定されています。マウンテンゴリラは 40 年ほど生き、オスだと体重 180 キロ、身長 170 cm まで成長します。



3. こんにちは、デウス牧師 タンザニア



デウス

デウスは、タンザニアのとても貧しい家に生まれました。デウスが学校に通い始めても、お父さんとお母さんはデウスのためにノートや鉛筆を買ってあげることができませんでした。ノートも鉛筆も持たずに学校に行くのは、デウスにとって、とても恥ずかしいことでした。ノートや鉛筆がなければ、宿題をすることもできません。デウスは5年生になったとき、もうこれ以上学校に行くことをやめようと決心し、学校を辞めました。

その頃、お父さんとお母さんは、あまりにも貧しいために、もうこれ以上デウスの面倒は見られないと、デウスをおじいさん、おばあさんの家に住まわせることに決めました。

おじいさんとおばあさんは、連れてこられた孫に特別な気持ちで向き合いました。おじいさんは、デウスを愛し、デウスに良い人生を送ってほしいと願っていました。特に、天の神様に

ついて知ってほしいと願いました。

おじいさんは、家からそう遠く離れていない学校を見つけました。しかし、デウスは学校に行きたがりません。外で他の子どもたちと遊んだり、仕事をしていたりするほうが、学校で座って勉強するよりずっと楽しかったのです。おじいさんはデウスに声をかけ続けました。

「学校に行くことは、あなたにとって良いことだよ。あなたは、もっと大切なことを学ぶべきだ」と毎日言い続けました。

同時に、おじいさんは、デウスに神様について教えました。何時間もかけて、聖書の面白い話をします。神様が、どのようにこの世界を造られたか。6日目にアダムとエバを創造され、7日目に休まれたこと。アダムとエバが罪を犯し、この世に罪が入ってきたこと。ノアの洪水や、アブラハムとイサク、モーセが紅海を渡ってイスラエルの民を約束の地まで導いたこと。イエス様がこの地上に来られ、十字架の上で亡くなってくださったことで、デウスも罪から救われ、イエス様と永遠に一緒に生きることができると。そしてお祈りの仕方。

おじいさんの説得のおかげで、デウスは学校に行くことに納得しました。初め、デウスは学校を好きになれませんでした。しかし、すぐに慣れ、楽しくなってきました。また何よりも、デウスは、おじいさんから聞く聖書のお話が楽しくてたまりませんでした。しばらくすると、デウスは自分で聖書を読むようになりました。そして学んだことを安息日学校でみんなに話しました。

しばらくすると、ある人がデウスに、安息日に説教をするようにお願いしました。一時は学校にも行かず、神様について何も知らなかった男の子が、みんなの前に立ち、神様への愛について語りました。おじいさんはとても喜びまし

た。

その安息日の後、デウスは次々に説教を頼まれるようになりました。その度に、デウスは喜んで自分の神様への愛について語りました。すると、周りの男の子たちが、デウスのことを「牧師」と呼んでからかうようになりました。満面の笑みで「こんにちは、デウス牧師！」と1人が言いました。すると、他の子が「お元気ですか、デウス牧師？」と言うのです。

デウスは、そのからかいが嫌ではなく、「牧師」と呼ばれたことで、真剣に将来について考えるようになりました。初め、自分には「牧師」と呼ばれる資格はないと感じました。しかし、時間が経つにつれて、神様がデウスを「牧師」へと招いてくださっていることに気付きました。

今、デウスは、タンザニアにあるセブンスデー・アドベンチスト大学、アルーシャ大学で牧師になるための勉強をしています。

今では、おじいさんが学校に行くように勧めてくれたこと、そして何より神様について教えてくれたことを心から感謝しています。

「神様がおじいちゃんを用いて、僕が牧師になる道を整えてくださったことを心から感謝しています」と、デウスは言います。

今期の13回献金の一部は、アルーシャ大学に新しい建物を建て、デウスのような学生が学ぶ場を増やすために用いられます。みなさんの献金に心から感謝します。

〈お話のヒント〉

- 地図でタンザニアを見つけましょう。
- フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。Bit.ly/fb-mq.
- 東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.
- この伝道地だよりは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。

「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No. 5)

「子ども、青年、若い大人の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No. 6)

「青年と若い大人が神さまを第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No. 7)

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- 1903年、ドイツの教会は、フライデンサウ大学で牧師の資格を得た野菜園芸家A.C.エンと、ドイツ教区のペンキ塗りに雇われていたヨハネス・イーラーの2人を宣教師として東アフリカに送りました。
- 第一次世界大戦中、タンザニアにいた宣教師たちは、西からの仕送りが止められ、宣教を中止せざるを得ませんでした。しかし、1921年S.G.マックスウェルが再びタンザニアの地に降り立った時、6年間信仰を保ち、バプテスマの機会を待っていた人々に出会いました。

4. 黒い棒を燃やす

タンザニア



ヨセフ

アフリカのタンザニアという国で、ヨセフという人は村の人々から恐れられていました。いいえ、それだけではありません。ヨセフはタンザニアの国中の人々に恐れられていました。さらに、東アフリカの国々や、遠く離れたノルウェーでもヨセフのことを恐れる人々がいました。

ヨセフは呪術医でした。天の神様を知らない人々は、自分や自分の愛する人が病気になると、ヨセフのもとに連れていき、病気を治してもらいます。時には、ヨセフのもとに来て、病気や悪いことの原因となっている敵を呪うようにお願いすることもありました。

ヨセフは、黒い棒を家の特別な場所にしまっていて、誰かが「病気を治してください」とお願いすると、その棒を使って病気を治しました。誰かが、「あの人を呪ってください」とお願いするときにもその棒を使いました。ヨセフはその黒い棒には特別な力が宿っていると信じていました。そして、その黒い棒の中にヨセフの命も隠されていると信じていました。

人々は、ヨセフの持っているこの黒い棒をとっても恐れていました。また、それ以上にヨセフのことも恐れていました。ヨセフが誰かに向かって指をさして命令したら、その人は死ぬかもしれないと信じていたからです。

本当は、ヨセフには、特別な力は何もありませんでした。人々が恐れている「力」はサタンから出るものでした。しかし、そのようなことは、誰もヨセフに言えません。タンザニアでも、他の東アフリカの国々でも、ヨセフが一度訪ねたことがあるノルウェーでも、人々はただヨセフを恐れることしかできませんでした。

ある時、セブンスデー・アドベンチストの牧師が、ヨセフが住む村を訪れました。そして、ヨセフを含む、村の人々を招いて天の神様の話をしました。ヨセフはとても興味があったので、そこに参加しました。ヨセフが話を聞き始めると、神様の力がヨセフの心に触れました。ヨセフは自分の人生を神様にささげることを決意し、バプテスマを受けました。

話をした牧師は、ヨセフが天の神様のために生きたいと願った姿を見てとても喜びました。しかし、ヨセフに向かって、「呪術に使っていた道具を全て燃やさなければならない」と告げました。ヨセフは黒い棒以外にもたくさんの呪術の道具を持っていました。牧師は、村の人々の前でそれらの道具を燃やすように言いました。

ヨセフは、1つだけお願いしました。「全部燃やします。でもあの黒い棒だけは燃やすことができません」。黒い棒には自分の命が隠されているから、黒い棒を捨てたら、自分は死ぬ、と言って聞かないのです。

牧師は、「あなたの命はサタンの手の中にはありません。あなたの命はイエスさまの手の中にあります！ あなたが救い主だけを信じれば、死ぬことは決してありません」と言って説

得しました。

ヨセフと牧師は少し言葉を交わしました。そして、ついにヨセフは黒い棒を含む全ての道具を燃やす決心をしました。

村に大きな焚火が用意されました。人々が驚いた様子で眺める中、ヨセフは1つずつ呪術の道具を焚火の中に投げ入れました。たくさんの人々を恐れさせていた男が、今、自分の手でその道具を焚火に投げ入れています。多くの人々に恐れられた男は、今、天の神様を畏れています。

全てを投げ入れて焚火を見つめるヨセフの顔は、以前のような怖い呪術師の顔ではなくなりました。満面の笑みを浮かべたヨセフは、焚火の周りで飛び跳ねました。そして、その手には聖書が握られていました。その様子を見た村の人々は神様に心からの賛美をささげました。

ヨセフは、その後すぐに、天の神様への愛を人々に伝え始めました。バプテスマの後すぐに、ヨセフは知り合いの呪術師のもとを訪れ、神様のことを伝えました。そしてその呪術師も神様を信じ、バプテスマを受けました。

今期の13回献金の一部は、アルーシャ大学に新しい建物を建てるために用いられます。そこで、より多くの牧師が呪術師や他のアフリカの人々にイエスさまの愛を伝えるために養成されます。

〈お話のヒント〉

- 地図でタンザニアを見つけましょう。
- ヨセフは自分がバプテスマを受けた後、すぐに友だちに神様のことを伝えました。そのことを、子どもたちと振り返り、子どもたちが友だちに神さまのことを伝えることが出来るように励ましましょう。
- ヨセフが焚火の周りで飛び跳ねている様子を見ましょう。 [Bit.ly/Joseph-stick](https://bit.ly/Joseph-stick).
- フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。 [Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq).

- 東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。 [Bit.ly/eec-2023](https://bit.ly/eec-2023).

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です

「多様化する都市部や10/40ウィンドウ、まだ宣べ伝えられていない、宣べ伝えられにくいグループの人々、またクリスチャンでない人々へのアドベンチスト伝道を強める」

（「伝道の目標」No.2）

「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://www.IWillGo2020.org) をご覧ください。

豆知識

- タンザニアには、成長すると4キロにもなる世界最大のカニ、ヤシガニ（英語ではココナツクラブ）が多く生息しています。



5. 魂に響く音楽

ウガンダ



ジョン

ジョンがまだ7歳だった頃、ジョンのお父さんは、「ウガンダに本当の神様の教会はたった1つしかない。その他は全部偽物だ」と言いました。

ジョンが通っていた日曜教会の牧師も、「他の教会は全て偽物だから、礼拝説教などは聞かないように」と注意していました。

ジョンはお父さんや牧師が言うことを信じていました。2人の言うことを聞かないということは、神様の教えに従わないということだと理解していました。

しかし、ジョンは、どうしてもセブンスデー・アドベンチスト教会の礼拝説教を聞かずにはおれませんでした。ジョンの家の近くでアドベンチスト教会が大きなテントを張り、そこで伝道集会を始めたからです。テントからは、美しい賛美が聞こえてきます。ジョンは音楽が好きだったので、テントから流れてくる音楽が聞きたくて仕方ありませんでした。でもテントに入るのは気が引けるので、近くのスーパーの前に立って、その音楽に耳を傾けました。ジョン

は、説教が始まるまで、音楽を楽しみました。説教が始まると、自分の通う教会の牧師から、他の礼拝説教を聞いてはいけないと言われていたので、その場を立ち去りました。

次の日も、また次の日も、ジョンはスーパーに立ち寄り、テントから流れてくる美しい音楽を楽しみました。そして、説教になるとその場を立ち去ります。それが、伝道集会が終わるまで続けました。

しばらくすると、アドベンチスト教会は、また伝道集会を始めました。ジョンは、またスーパーの前に立って音楽を聴くようになりました。時には、説教の一部を聞いてしまうこともありました。ほんの少しだけ、ジョンの耳に届く説教は、ジョンの心を揺さぶりました。それからというもの、アドベンチストの伝道集会が開かれるたびに、ジョンは、近くで音楽を楽しむようになりました。

それから数年が経ち、ジョンは、伝道集会で聞いたのと同じ音楽を、お父さんのラジオを使って聞けることを発見しました。それからは、長い時間、家で音楽を楽しむようになりました。

ある土曜日の朝、ジョンは、家に1人でいました。次の日に教会に着ていくための洋服を洗いながら、いつものようにラジオから聞こえる音楽を楽しんでいました。音楽が止まり、説教が始まった時、ジョンは急いでラジオに近づき、スイッチを切ろうとしました。しかし、洗濯をしていたので、手が濡れていました。ジョンは手を拭く間もなく、ラジオのもとにとんで来たのです。お父さんのラジオを濡れた手で触り、壊してしまったら大変です。そこで、ジョンは仕方なく、流れてくる説教を聞き始めました。

説教は安息日についてでした。ジョンはとても興味を持ちました。牧師は、聖書のみ言葉から、安息日が日曜日ではなく、土曜日であるこ

とを語りました。ジョンは、急いで自分の部屋に戻り、紙とペンを取ってきました。まだ手は乾いていませんでしたが、牧師が読み上げる聖書の箇所を全て書き留めました。そして、説教が終わってから、お父さんの部屋へ行き、古い聖書を取り出しました。今日の説教で使われた聖書のみ言葉が本当に聖書に書かれているのか確かめたかったのです。ジョンは、出エジプト記 20 章を開いて読みました。「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。」(8~10 節、新共同訳)。ジョンは他の聖書の箇所も読みました。全ての箇所は、今日の説教で聞いた内容と一致していました。これは、偽物ではありません。お父さんの持っていた古い聖書は、土曜日が安息日とはっきりと示していました。

それから毎週土曜日の朝、ジョンは、アドベンチスト教会の説教をラジオで聞くようになりました。毎回、聞きながら聖書の箇所のメモを取り、後から、お父さんの古い聖書で内容を確認しました。

聖書を読み進めると、ジョンは、「もう真理から目をそらすことはできない。聖書の教え通りに安息日を守るためにはどうしたら良いのだろう」と疑問に思うようになりました。

ある土曜日の朝の説教は、イエスさまの再臨についてでした。牧師は、イエスさまの再臨が近づいているしるしについて語りました。その言葉を聞いて、ジョンも、イエス様の再臨が近いことを信じました。そして、自分の心をイエス様にささげる決心をしました。

現在、ジョンは大人になって、牧師になりました。そして、ウガンダで、子どもを含む多くの人々に美しい音楽と説教を届けるアドベンチスト・ワールド・ラジオの責任者として活躍しています。

今期の 13 回献金の一部はウガンダと世界中の人々にイエス様の再臨という良い知らせを

宣べ伝えるために用いられます。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でウガンダを探してみましょう。
- ジョンは、現在牧師の資格を持ち、ウガンダの大きな街、ムバララでアドベンチスト・ワールド・ラジオの責任者として活躍しています。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。Bit.ly/fb-mq.
- 東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.
- この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No. 5)

「子ども、青年、若い大人の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No. 6)

「青年と若い大人が神さまを第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No. 7)

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- 1977 年から 1979 年の間、第 3 代大統領イディ・アミン・ダダにより、ウガンダでのセブンスデー・アドベンチスト教会の集会は禁止され、教会の土地や持ち物は没収されました。それまでに建てられたアドベンチストの学校も、政府によって公立学校へと変換させられました。それらの歴史は、ウガンダでのアドベンチストの伝道をより困難なものにしました。

6. 再びチャンスをくださる神さま

ウガンダ



マーベル

ウガンダに住むマーベルが8歳だった頃、マーベルのお父さんとお母さんは、お金がなく、食料を買うことが出来ずにとっても困っていました。

マーベルのお父さんは魚を捕る漁師でした。ビクトリア湖という所に魚を捕りに行くのですが、網が小さくて十分な魚を捕ることができません。少しの魚では少しのお金しか稼ぐことができないので、家族はいつもお腹を空かせていました。お金がないので大きな網を買うこともできません。

しばらくすると、お父さんは新しい仕事を見つけ、マーベル一家は引っ越すことになりました。新しい街で、お父さんはセブンスデー・アドベンチスト学校の守衛（学校にいるガードマン）として働くことになりました。お母さんは、同じ学校の給食室で調理の仕事をするようになりました。2人が働くので、家族が十分に食べるだけのお金を稼ぐことができるようになりました、お父さんもお母さんも嬉しそうでした。

マーベルの家族はセブンスデー・アドベンチストではありませんでした。学校の校長先生にも、ここで働かせてもらうけれども神様を信じるクリスチャンになるつもりはありませんと伝えてありました。お父さんとお母さんが学校で働く間、マーベル一家は、聖書のことをたくさん学びました。

3年経ったとき、お父さんとお母さんと校長先生の間でちょっとした行き違いがありました。それに抗議するために、お父さんとお母さんは学校での仕事を辞めました。

仕事を辞めるとすぐに、また苦しい生活が始まりました。お父さんもお母さんも新しい仕事を見つけることが出来ず、毎日の食事のお金もなくなりました。

お父さんとお母さんは家族を連れて他の街に引っ越し、そこで仕事を探そうとしました。家族は、ウガンダの首都カンパラに移り住みましたが、そこでの生活はもっと苦しいものでした。そこには頼れる人が1人もいなかったのです。貯金が底をついた時、お母さんは、マーベルと他の子どもたちを呼び寄せ、「セブンスデー・アドベンチスト教会を探して、助けを求めましょう」と言いました。

マーベルと兄弟たちは、街中を歩き回り、セブンスデー・アドベンチスト教会を探しました。それは大変な作業で、足は棒のように疲れました。しかし、子どもたちは探し続け、ついに「セブンスデー・アドベンチスト教会」と書かれた看板を見つけました。子どもたちは、急いでお母さんのもとに戻り、お母さんを連れて教会を訪ねました。その日はちょうど金曜日で、教会の人たちが安息日のために教会を掃除していました。訪ねてきたマーベルやお母さん、小さ

な弟や妹を、教会の人たちは満面の笑みで迎え入れ、「明日、またいらっしゃい。一緒に礼拝しましょう」と言いました。次の日、マーベルと家族は、安息日を教会で過ごしました。前の日と同じように、教会の人たちは満面の笑みでマーベル一家を迎え入れました。

お昼になると、マーベル一家は、教会での昼食に誘われました。昼食を終えて帰ろうとしたとき、教会の女の人たちが食べ物を詰めて、マーベル一家に持たせてくれました。マーベルのお母さんはとても喜びました。

次の安息日も、またその次の安息日も、マーベル一家は教会へ行きました。何年も経ち、マーベルは安息日学校で役割を担うようになりました。みんなの前に出てお話することもあります。教会のパスファインダークラブにも入りました。

マーベルのイエス様に対する愛は大きくなり、マーベルは、自分の心をイエス様にささげ、バプテスマを受ける決心をしました。マーベルと一緒に2人の兄弟もバプテスマを受けました。

現在、マーベルは17歳になり、執事として教会で活躍しています。マーベルはイエスさまについて語ることが大好きです。マーベルの一番好きな聖書のみ言葉は、イエス様が弟子たちに向けて命令をした箇所です。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書28章19、20節、新共同訳)。マーベルは、聖書について語り、人々に教えることが大好きです。

今期の13回献金の一部は、マーベルのように若い人たちが聖書を語り、人々を教える訓練を受けるために用いられます。若い人たちは、聖書の教えを学ぶだけでなく、農業や、生活するために十分なお金や食べ物を手に入れる方法も学びます。ウガンダの青年研修センター

のために、皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でウガンダを見つけましょう。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。 [Bit.ly/fb-mq](https://www.facebook.com/Bit.ly/fb-mq).
- 東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。 [Bit.ly/ecd-2023](https://www.Bit.ly/ecd-2023).
- この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)

「子ども、青年、若い大人の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No.6)

「青年と若い大人が神さまを第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No.7)

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://www.IWillGo2020.org) からご覧ください。

豆知識

- ウガンダの女の人、世界中の女の人に比べて多くの赤ちゃんを産んで育てると言われています。1人の女の人が平均6人の子どもを産んで育てます。街に住む人よりも田舎に住む人のほうがより多くの子どもを産んで育てます。女の方は若く結婚し、出産の間隔がとても短いのです。

